

はままつ水道物語

コップ一杯の水道水に85年の歴史あり。
 浜松の発展とともに、成長を続けてきた市の水道事業の流れをたどってみよう。

日本で初の近代水道が
横浜に完成

1887 (明治20)年

東京で近代水道が完成

1898 (明治31)年

浜松市で水道建設が
企画される

1917 (大正6)年

浜松市で異常湧水が発生、
市内全域の井戸水が枯渇

1924 (大正13)年

浜松市議会で水道計画の予算が
可決される

1925 (大正14)年

1929 (昭和4)年

1931 (昭和6)年

1945 (昭和20)年

1958 (昭和33)年

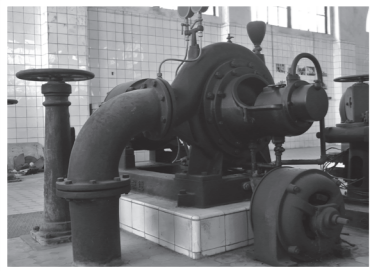
1970 (昭和45)年

2005 (平成17)年

2012 (平成24)年

昭和6年に タイムスリップ

「旧住吉浄水場ポンプ室」は歴史的な文化遺産として国登録有形文化財に指定。昭和6年完成から、戦火をくぐり抜け昭和48年まで稼働し、ものづくりのまち浜松を支えました。(中区住吉にある浜松市上下水道部住吉事務所の敷地内に建つ)



浜松の宝が国の宝となる。

浜松の水道の遺産が
水道の歴史を語りかける。

住吉浄水場跡の
施設と常光浄水場の
ポンプ室が国の
登録有形文化財に

市町村合併により
給水区域拡大。
計画給水人口79万6400人

広域への配水が可能な
大原浄水場施設が完成

秋葉ダムが完成

空襲によって施設や
市内配水管に甚大な被害

住吉浄水場と
常光水源地の工事が完成。
計画給水人口13万人

工事が始まる

度重なる空襲、 失われた市民の水

昭和19、20年の27回にもおよぶ米軍の空襲などで市内中心地は壊滅状態に。配水管が壊され漏水が発生。幸いにも「住吉浄水場」は戦禍を逃れましたが、7万人あった給水人口は4,500人まで落ち込みました。

水道のなかった浜松。

水道のなかった85年前、市民は井戸水や川の水を飲んで生活していました。浜松市は大正初期ごろから人口が急激に増加し、また商工業の発展に伴い、水量が不足したり、衛生面が悪化したりしました。

水を得た魚、進撃の浜松。

市民が上水道施設を望む中、大正13年、異常湧水による市内全域の井戸水が枯渇。これを受け、翌年市議会で水道整備計画の予算が可決されました。市制20周年を迎えた昭和6年、天竜川の伏流水を水源とする「住吉浄水場」が完成。これを機に、ものづくりのまち・浜松が大きく飛躍しました。



「やрмаいか」の精神で 驚異の復興。

戦後の浜松は市民の持ち前のパワーで驚異的な復興を遂げます。しかし人口の増加、電力事情の悪化、施設の老朽化により市内各所に断減水が発生。そこで、大規模な拡張工事が行われ、水源(深井戸)も新たに確保されました。その後も、給水人口と生活用水需要は増加。昭和45年には広域への配水が可能な「大原浄水場」が完成し、3年後の昭和48年、歴史的な水道施設「住吉浄水場」はその役目を終えました。

桜の季節に会いましょう。

「浜松市上下水道部
住吉事務所」一般開放

4月初旬の桜開花の時期に場内開放を実施しています。
旧住吉ポンプ場の佇まいと周辺に咲く場内の100本余りの桜をご覧ください。



「水の道は一日にして成らず」
だっち。